

BELIEVE

2024
冬号
VOL.87

特集 ガザ地区における医療支援事業 看護師が見たガザ



「WHITE CHRISTMAS EVE」 秦 美紀子(エイブルアート・カンパニー所属 <https://www.ableartcom.jp>)

■ シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔③7 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園長 住本 真一 ■ 看護師レポート

- 食だより／冬一食塩控えめ! 「手羽先と野菜のゆず塩鍋」
- お薬ミニ知識／ワクチンの種類について
- 緩和ケアチーム、からのお知らせ
- かかりつけ医をもちましょ
- 当院でのチーム医療の取り組み「ハートチーム」の紹介
- Topics Box ニュース&イベント

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



ガザ地区における医療支援事業 看護師が見たガザ

大阪赤十字病院 国際医療救援部

令和元年から継続して医療支援活動を行ってきたガザ地区。昨年10月7日に軍事衝突が勃発し、その後ガザ地区全域で攻撃が激化しました。今号では医療支援事業のため派遣されていた2名の当院看護師が、現地で見えて感じたありのままのガザの様子をレポートします。

REPORT 1



看護師
川瀬 佐知子

継続して行ってきた医療支援事業、
昨年10月7日の武力衝突で
状況が一変

日本赤十字社は令和元年から、パレスチナ自治区・ガザ地区にあるアルクツズ病院で医療支援事業を行っています。

ガザ地区は隣国との境界を高さ6mにも及ぶ壁で囲まれています。「天井のない監獄」とも呼ばれ、出入りするには厳しい検問を受けなければならず、パスポートを持つことすら許されない人もたくさんいます。食料、水、電気などの生活インフラへの制限はもとより、教育の機会も極端に制限されています。

当事業では、「医療サービスの質の向上」を目的とし、現地の医療スタッフの育成を主体とした活動を行ってきました。活動開始当初は日本赤十字社職員を現地に派遣していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行や情勢悪化の影響で令和2年からリモート支援を続け、

令和5年7月からガザ地区への派遣を再開しました。私は一年間のリモート支援を経ての派遣となりましたので、ガザで現地スタッフに面したときは感無量でした。現地スタッフも私たちもこのときをずっと待ち侘びていました。

私たちの活動は、現地スタッフや看護師長たちと協力し、全看護師約80名を対象に手術前後のケアや点滴の管理な



▼軍事衝突前のガザの風景



▲看護ケアの研修風景

ど、看護技術に関する手順書を作成し、研修を行うことでした。活動の要となるのは、看護師長と2名の現地看護師（ハムディ、ハッサン）です。看護師長はとても熱心な方で、雇用が不安定かつ教育の機会が乏しい現状に常に懸念を抱いていました。ハムディは20年以上新生児看護の経験があり、とても頼りになります。ハッサンは20代とまだ若いですが、頭の回転が速くエネルギー溢れる救急看護師です。

彼らとともに10月17日に行う研修の準備に取りかかっていた矢先、10月7日の軍事衝突で状況は二変しました。建物や道路は損壊し、街中のいたるところに煙が上がり、焼けた匂いが充満していました。よく通ったパン屋は全壊し、子どもたちで賑わっていた道は瓦礫の山と化しました。病院には爆撃のたびに患者が運ばれ、看護師は24時間交代の緊急体制に切り替え、看護師長は何日も泊まり込みで対応にあたっていました。

した。日に日に攻撃が激化し、病院の天井が落ち、ガラスが割れ、看護師長からは「身の危険を感じながら医療スタッフは働いている。医療現場は本当に過酷だ。」と連絡がありました。アルクツズ病院も何度も攻撃勧告を受け、退避

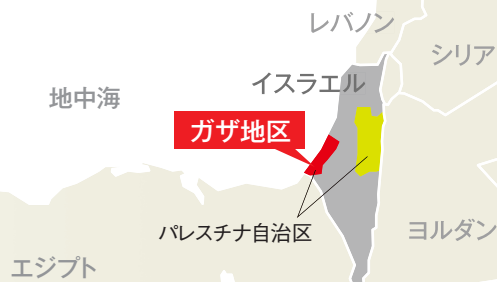


▲爆撃で負傷した救急隊員の処置にあたる現地看護師

を強いられていました。その後、水・燃料が底を尽き、11月14日に患者、スタッフ、避難民ともに南部に移動しました。軍事衝突が勃発した際、私はガザ市の宿舎に滞在していましたが、日ごとに状況が悪化し、10月13日に赤十字国際委員会のメンバーと共に南部に退避し、11月1日にラファ検問所を通りエジプトに入った後、同月5日に帰国しました。

衝突から3カ月が経過し、死者は既に2万2千人を超えました(令和6年1月現在)。その多くは、女性や子どもを含む一般市民です。攻撃や燃料不足により多くの病院は機能を失いました。救急車も攻撃され、救急隊員も殉職されています。国際人道法で守られるべき皆さんの命や機能が失われ続けています。現在は南部でも攻撃が激化しており、現地スタッフから「恐怖で怯える日々がまた始まった。」と悲痛なメッセージが送られてきました。

パレスチナ赤新月社、赤十字国際委員会のメンバーは現在も活動を続けています。当院でも人道危機の収束を願い、*“Not A Target”*(医療はターゲットではない)キャンペーンを行っています。職員一人ひとりの声が繋がると、現地の方々の力となるでしょう、今できることに全力で取り組んでいます。ガザ、イスラエルの人々の命と尊厳が守られ、平穏な日々を過ごせるよう、一日も早く事態が収束することを心から願います。



REPORT 2

ガザ地区の出生と 看護師不足における 早産児のケアの支援活動



助産師兼看護師
角山 充子

私は助産師としてパレスチナ赤新月社の運営するガザ地区のアルクッズ病院で、主に新生児集中治療室（以後NICU）の看護技術向上の支援にかかりました。ガザ地区の出生率は非常に高く日本の出生率の5倍を上回り、出産の半数以上が早産だといわれています。早産の原因は、多産のため出産して次の出産に至るまでの期間が短いことや、低栄養、感染症による影響、不妊治療によつて2人以上の赤ちゃんを同時に妊娠することが挙げられます。早産の赤ちゃんは体が小さいだけでなく、呼吸・循環を助けるための治療が必要です。

アルクッズ病院にも体重が1,000gに満たない早産児が入院しており、熟練した看護師による細やかなケアが欠かせません。しかし、ガザ地区では就業の機会が少なく、失業率が45%を超える状況です。看護師は政府系病院に勤めていても病院の財政難のために元来の給料が支払われないことがあり、安定した生活を求めて私立病院で副業をする例が多くありました。それにより新人看護師の就業の場が不足する事態が発生し、令和4年にガザの保健省による副業規制が行われました。その結果、アルクッズ病院では多くのベテラン看護師が退職せざるを得ない状況となり、NICUで働く看護師のほとんどは新人看護師で、先輩看護師から基本的看護技術を学ぶ機会がありませんでした。

そこで、基本的看護技術の教育計画を立案し、実技を交えた講義を行いました。実技では今までの方法がなぜ不適切なのかという質問や看護ケアの改善点を主体的に話し合い、講義の後に改善策を実践する看護師の姿から、学びを日々のケアに活かす実践力の強さを実感しました。その後も講義を続ける予定でしたが10月7日の武力衝突の激化により現地での活動の中断を余儀なくされました。



▲新生児集中治療室の看護師に実技を行う角山助産師

日を追うごとに死者の数は増え続け、そのうちの4割が子どもたちだといわれています。それはただの数字ではなく、背後に失われた命を悲しむ人が大勢いるはずです。病院でこんな場面に遭遇することがありました。三つ子の赤ちゃんが生まれたときのこと。お父さんだけでなくおじいちゃんおばあちゃん、さらには叔父さんと叔母さんまでお祝いに駆けつけていました。「今日1日で3人の孫ができたんだ。」と涙を流して喜ぶおじいちゃんとお父さんになったの。と笑顔で喜ぶお父さんの姿は今でも忘れられません。新しい命の誕生を涙して喜ぶ家族から、生命の誕生の尊さと生まれたばかりの赤ちゃんがたくさんの人と結ばれていることを深く感じました。

しかし、このときの幸福とは変じて現在ガザ地区では多くの一般市民が住まいを追われ避難先で過ごしています。このなかには、同じように小さな赤ちゃんを抱えた家族もいて、本来、国際人道法で保護され、決して攻撃の対象になつてはならない人々の生命が危険にさらされています。

「Not A Target」一般市民や医療はターゲットではなく、人々の尊厳と命を守るための支援が必要です。現在もパレスチナ赤新月社、赤十字国際委員会のスタッフやボランティアは救援活動が続いています。今後も危機に直面する人々への継続的な支援が求められています。

▼事業チームメンバー



Information



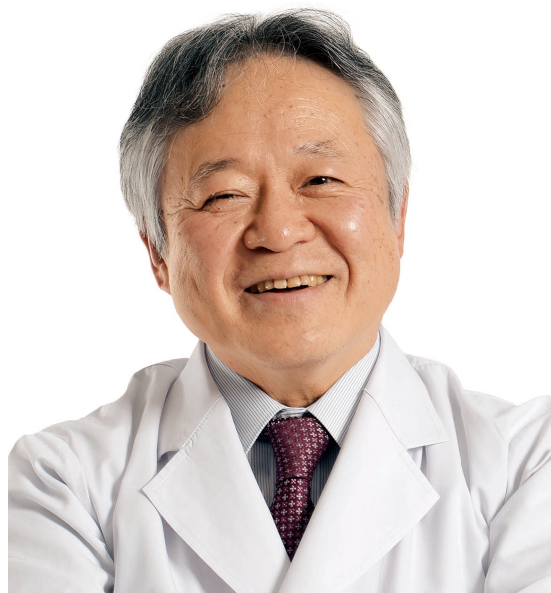
国際医療救援部 公式フェイスブック
日々国内外の人道支援活動を紹介しています。

<https://www.facebook.com/355328871229152/>



どんな子も受けとめられる 施設をめざして「白衣の園長」へ。

大阪赤十字病院附属大手前整肢学園長 住本真一



小児科医として、園長として、自分でできることをやってみよう。

相手を包み込むような柔和な笑顔に、小児科医として35年以上という豊かなキャリアがにじみ出る。当院の小児科主任部長であり副院長だった住本医師が、当院附属の大手前整肢学園の園長となつたのは2年前のこと。「正直、かなり大きな決断でした」。そう打ち明けるのも無理はない。医療的なケアが必要な子どもたちの施設であるこの学園は、一般外来をはじめ、リハビリや入院、親子での入園、学校教育まで、さまざまな役割を兼ね備えた全国でも珍しい施設。多職種スタッフや業務を束ねる難しさに

加え、行政からの支援が一切ないため、経営面での課題も少なくない。

それでも「やるしかない」と心を決めたのは、



可愛い盛りのお孫に囲まれると、とっても甘いお祖父ちゃんに。

ときは嬉しい。園長になつてよかったと実感します。

頼られるための強さを、内から育てる。

これまで「治す」医療の最前線で活躍しながらも、「治すのが難しい」子どもたちの行き場がずっと気にかかつていたから。「この学園がなくなれば、ここを頼りにする人たちはどうなるのか」。そんな想いから、次の時代にも持続可能な施設として、ひとつずつ改革を進めている最中だという。「まずは、私たちから変わること、もつと地域に開かれた医療や福祉の拠点となっていきたい。『困っているお子さんがいたら、あの学園に相談すればなんとかなる』。そんな声が自然と出てくるような、皆さまに頼られる場所となるのが理想です」。

もちろん現実として、すべてが万事解決するわけではない。医療の現場もマニュアル尽くめの昨今だが、この学園に来る人々にとって、何をより良い状態とするかめざす方向は二人ひとりで違う。「それでも、一緒に悩んで、少しでも相手の力になれた

高校生のときに大きな病気をしたのがきっかけで、医者になろうと決めた住本医師。実は小児科主任部長だった数年前にも、狭心症で倒れて車椅子生活を経験したことがある。「あらためて目線の低さに驚きましたね。そこから見た自分はずいぶん偉そうに見えていたんじゃないかと、これまでの態度を見直す機会になりました」。どんな出来事も人生のプラスに変えていく、そんな人間的強さが住本医師の真骨頂である。

難しい病気に挑み、治すための知識を磨いた若手時代。古い慣習に立ち向かい、新しい体制を取り入れた管理職時代。「園長としてはまだまだ勉強中ですが、皆で協力しながら、より良い学園をめざしたいんです」。すべては、目の前にいる子どもたちのために。白衣の園長、住本医師がついていれば、スタッフも家族も、そして子どもたち自身も、ともに困難を乗り越えられる気がした。

大手前整肢学園 SNS 紹介 **随時配信中!**

YouTube
← 学園紹介はコチラ

Instagram
フォローしてね →

大阪府出身。昭和60年に京都大学医学部卒業。小児科医として住友病院に入職後、平成2年より京都大学大学院医学研究科において小児科学の博士課程に進み、免疫・アレルギーの研究に従事。平成6年より大阪赤十字病院に勤務。小児科主任部長兼新生児・未熟児科主任部長、副院長(兼務)、アレルギーセンター長(兼務)を経て、令和4年より現職。

看護師レポート 87 REIKO ISHIZUKA

大阪府生まれ。昭和60年に大阪赤十字看護専門学校を卒業し、大阪赤十字病院に入職。循環器内科、救急外来、内科外来、産婦人科、NICUなどを経て、平成21年より小児科へ。平成28年、整肢病棟の係長に兼任。令和4年より現職。



看護師長 石塚 玲子

深く相手を見つめることで、重大な兆しにも喜びにも気づける。

分の前で、ときばきとお世話をする先輩方に感動。「本当にこの人のことを理解しているから、できるんだ」と、相手をしっかり看ることの大切さを教わりました。

やがて小児科に異動し、あるお子さんの担当になったとき、「あなたが話しかけてくれると、いつも安心した表情になる」とご家族に言われ、先輩に近づけたように嬉しかったことをよく覚えています。今、整肢病棟で担当する子どもたちのように、その子も自分から意思を伝える

のが難しい状態だったので、できるだけそばに時間をとるようにしていったのです。自分で動いたり話したりできない子は、重大な事態に陥りやすいので、わずかな兆しにも気づける必要があります。そうして相手を観察する目を研ぎ澄ました結果、ちよとした表情の変化に「あ、楽しんでくれているな」と心が伝わる喜びを感じています。そんな子どもたちの素敵な姿をたくさんの人に知ってほしくて、ご家族の了承を得てSNS(左上記)での発信もスタートしました。

特別なケアを必要とする子どもたちの数は増えていますが、そのための施設に勤める看護師は全体のごくわずかです。誰にでもできることではないからこそ、この仕事にやりがいを感じ、専門職として志す人がひとりでも多く増えてほしい。子どもたちやご家族の思いを受け止め、より質の高いケアを提供したい。そう心から願っています。



8年前から始めたフラダンスで、ときどきイベントに出演。



食だより

● ● ● 栄養管理課 管理栄養士 光田千穂

冬 旬を味わう 食塩控えめ！「手羽先と野菜のゆず塩鍋」

寒い日が続き温かい料理がおいしく感じられる季節ですね。身体を温めるために鍋物をする機会も増えているのではないのでしょうか。冬は寒くなると血管が収縮することで血圧が上がりやすくなります。食塩量の多い鍋物や汁物などの温かい料理を食するときには注意していただきましょう。

◆適切な食塩摂取量について

1日当たりの食塩摂取の目標は、男性7.5g未満、女性6.5g未満です。高血圧、心臓病、腎臓病などの食塩制限が必要な方はさらに少ない1日6g未満が推奨されています。しかし、厚生労働省の「国民健康・栄養調査」の結果では、食塩摂取量の平均は10g程度と大きく上回っており、疾患の有無にかかわらず控えめな味付けを心がけることはとても大切です。

◆食塩控えめで鍋物を楽しむポイント

鍋つゆにひと工夫を 市販の鍋つゆは1人前で3〜6g程度の食塩が含まれています。使用量を少なめにする、水炊きや手作りのだし汁を取り入れるなど、工夫をしましょう。生姜やみじんおろしなどの薬味や、ゆず、すだちなどの柑橘類を活用するのもおすすめです。

練り物、加工品は控えめに ちくわ、はんぺん、さつま揚げなどの練り物には食材そのものに0.5〜1g程度の食塩が含まれています。具材は加工品を控え、魚や豆腐など生の食材に置き換えましょう。

締めにも注意! 雑炊や麺類を締めにすると鍋つゆを吸収してしまつたため、さらに食塩量が多くなります。食べる頻度の多い方は、締めをせず白ご飯と組み合わせるような食べ方を取り入れましょう。



〈材料〉(2人分)

- 手羽先 6本
- 大根 1/3本
- 白菜 3-4枚
- 長ねぎ 1/2本
- 人参 1/4本
- えのき 適量
- 水菜 適量
- 白だし 40cc
- 水 400cc
- ゆず 1/2個
- 黒こしょう 適量



〈作り方〉

- 野菜を食べやすい大きさに切る。
- 鍋に白だし、水を入れ、手羽先と大根を5分程度煮込む。
- 水菜以外の野菜を加え、火が通るまで煮込む。
- 5mm幅に薄切りにしたゆずと水菜を乗せ、黒こしょうで味を整える。

■栄養成分(1人分)

エネルギー	270kcal
たんぱく質	20.0g
脂質	16.5g
炭水化物	14.1g
食塩相当量	2.2g



お薬ニ知識



薬剤部 薬事衛生課
勝村 紀香

ワクチンの種類について

皆さまはワクチンに種類があるのをご存知でしょうか？ ワクチンには大きく分けて3つの種類があります。今回はそれぞれどのようなワクチンなのか、予防接種の際はどのようなことに注意する必要があるか、詳しく紹介します。

1 弱毒生ワクチン

病原体となるウイルスや細菌の毒性を弱めて病原性をなくしたものを原材料として作られます。毒性を弱められたウイルスや細菌が体内で増殖して免疫を高めていくので、接種の回数は少なく済みます。ただし、毒性は弱められていますが増殖能は残っているため、胎児への影響を考慮して、妊娠している方、妊娠の可能性のある方には原則として接種は行いません。

例 MR(麻しん風しん混合)ワクチン、BCG、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)ワクチン など

2 不活化ワクチン

死滅させて増殖能を失わせた細菌や不活化したウイルスなどを抽出して作られます。生ワクチンのように体内で増殖することがないので、1回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持できず、数回の接種が必要です。

例 インフルエンザワクチン、HPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチン、日本脳炎ワクチン など

3 トキソイド

病原体となる細菌が作る毒素だけを取り出し、ホルマリンなどで処理を行い、毒性をなくして作られます。不活化ワクチンと同じように、複数回の接種によって体に免疫を付けます。

例 破傷風ワクチン、ジフテリアワクチン など

● 予防接種の注意点 ●

- 接種日に発熱(37.5℃を超える)している方は予防接種を受けることができません。接種前に体温の測定をお願いします。
- 予防接種を受けた後、30分程度は医療機関に滞在するようにしましょう。まれに急な副反応が起ることがあります。
- 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチン、トキソイドでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- 接種部位は清潔に保ってください。
- 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医療機関を受診してください。

緩和ケアチーム、からのお知らせ

入退院支援課
医療ソーシャルワーカー
野村 美奈子

vol.58 がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

がん相談支援センター
本館2階 患者相談窓口
TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126
syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

緩和ケア病棟における医療ソーシャルワーカーの役割とチーム医療

●緩和ケア病棟

積極的ながん治療の継続が難しくなってきたときに、がんによる苦痛を和らげ、自分らしく過ごしていただくための選択肢のひとつとして緩和ケア病棟があります。緩和ケア病棟は、「最期をむかえるところ」というイメージはありませんか？ 当院ではそれだけが目的ではなく、痛みなどの身体的なつらさや心のつらさなど、さまざまな苦痛を、できるだけ和らげるための治療を行っています。自宅から一時的に入院していただき、症状が落ち着けばまた自宅へ戻るということも可能です。

●医療ソーシャルワーカーの役割

緩和ケア病棟は長期的に入院できる場所ではなく、入院期間を1カ月から2カ月程度と定めており、緩和ケア病棟の医療ソーシャルワーカーは、それぞれのめざす療養先と一緒に検討していきます。具体的には、

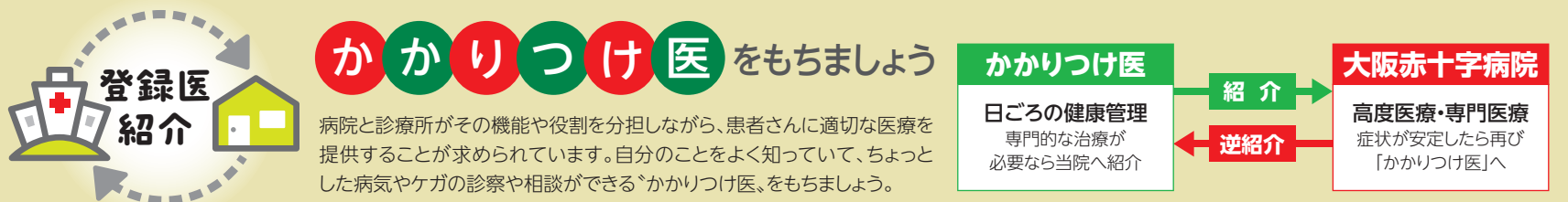
まず患者さんやご家族の希望を伺います。そして在宅療養を希望される方には、訪問してくれる在宅医や訪問看護、介護サービスなどの調整を行い在宅療養体制を整備します。入院期間が長くなつてこられた方に対しては、継続的に療養ができる施設や療養型病院を紹介します。退院をめざす方には、これからも安心して過ごせるよう療養先を考えていきます。

●チーム医療

緩和ケア病棟に入院された患者さんやそのご家族に対して、医師・看護師だけでなく薬剤師や管理栄養士、理学療法士、公認心理師、そして医療ソーシャルワーカーなどの多職種が、それぞれの専門性を活かし、ひとつのチームとなって治療を行います。また、少しでも患者さんが苦痛なく穏やかに過ごしていただけるよう定期的に多職種でカンファレンスを行い、チーム内で問題を共有しています。

▼「緩和ケア病棟がどのようなところか詳しく知りたい」、「入院できるのか聞きたい」などについては、本館2階『がん相談支援センター』で医療ソーシャルワーカーが相談をお受けしますので、遠慮なく話を聞きに来ていただければと思います。

がん相談支援センター
本館2階 患者相談窓口
日時／平日(月)～金曜
8時30分～17時(受付は16時まで)
※祝日、年末年始、5月1日は除く



いりょうほうじん
医療法人 きむらクリニック

●院長/木村 新
●診療科/内科
●住所/大阪府東大阪市友井5-4-43
●電話/06-6721-9250
●往診/無
●訪問診察/有(看取りも行っています)
●リハビリ/無(連携している訪問看護事業所へ指示は可能です)
●診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前 8:40~12:00	○	○	△	○	○	○
午後 16:40~19:00	○	○	△	△	○	△

▲往診、訪問診療対応 ■休診日/日曜、祝日

▶木村院長

▲医院入口

特長 地域に密着したクリニックとして、小学生以上の幅広い患者さんを対象に内科全般の診療、各予防接種や健康診断なども行っています。また、看取りも含めた訪問診療も行っており、患者さんの人生に最後まで寄り添う診療を心がけています。体調がすぐれないときにはまずはお気軽にお越しいただき、ご相談に乗り、対応できるよう、日々研鑽しています。より専門性を必要とする場合や、緊急性の高い場合などは、ご要望により大阪赤十字病院などの連携医療機関をご紹介します。

地域の皆さまへ 日本内科学会認定総合内科専門医です。患者さんがお元気になる、笑顔になられることが何よりも喜びです。まずはお気軽にご相談ください。

いりょうほうじん さかい い いん
医療法人 酒井医院

●院長/酒井 宏純
●診療科/内科、循環器科、呼吸器科
●住所/大阪府東大阪市菱屋西2-7-16
●電話/06-6729-7715
●往診/有(要相談) ●リハビリ/無
●診療時間

外来	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 16:00~19:00	○	○	○	△	○	△

■休診日/日曜、祝日

▶酒井院長

▼外観

特長 当院は平成9年に東大阪の地に開院、内科全般を診療しており、今年で27年目を迎えます。専門は循環器内科で動悸や胸の痛み、息切れ、喘鳴(ゼーゼー)などの症状がある方、高血圧や糖尿病、高脂血症、痛風などの生活習慣病の方を多く診療しています。患者さんとのコミュニケーションを大切に、健康になっていただくために患者さんとともに努力することをモットーとしています。

地域の皆さまへ 近鉄大阪線 長瀬駅より徒歩2分のところにある内科医院です。循環器疾患、呼吸器疾患、生活習慣病だけでなく、あらゆる内科疾患に対応しています。検査・治療はできる限り当院で完結できるように機器の充実にも注力していますが、高度な検査や治療、入院を要する場合には、速やかに大阪赤十字病院などの連携医療機関をご紹介します。診療は予約制ですが、利用しやすい環境づくりに尽力していますので、気軽にご受診ください。

当院でのチーム医療の取り組み 「ハートチーム」の紹介



当院
ハートチーム
のスタッフ

現在の医療現場では多職種のメディカルスタッフ（医療専門職）が連携しながらひとりの患者さんの治療にあたる「チーム医療」が注目されています。当院では高度大動脈弁狭窄症に対する低侵襲な治療である経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）の開始を契機に、患者さんを中心とした医療を実現するために循環器内科医、心臓血管外科医をはじめ治療にかかわるたくさんのメディカルスタッフで構成された「ハートチーム」を結成し循環器診療にあたっています。

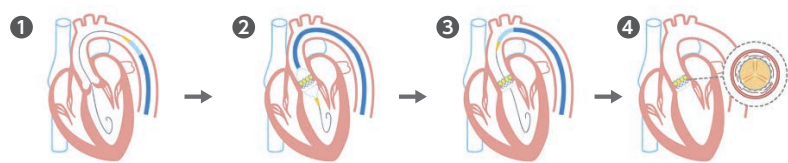
チーム医療とは

かつてはひとりの医師が中心となつて診療を行っていましたが、チーム医療では看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など、さまざまな職種が患者さんの病状に応じてチームを組み、意見を交換しながら患者さんの置かれている状況を分析し、患者さんが心身ともに健やかな生活が送れるよう治療とサポートを進めていきます。

大動脈弁狭窄症と 経カテーテル的大動脈弁置換術 「TAVI（タビ）」について

心臓は血液を全身に送るポンプの働きをしていますが、大動脈弁は勢いよく送り出した血液が心臓に逆流し

▼大腿動脈からのアプローチ（出典：患者さん向けtavi-web）



鉛筆ほどの太さに折りたたまれた生体弁を装着したカテーテルを、太ももの付け根の1cm弱の小さな穴から大腿動脈に入れて、心臓まで運びます。

生体弁が大動脈弁の位置に到達したらバルーン（風船）を膨らませ、生体弁を広げ、留置します。

生体弁を留置した後は、カテーテルを抜き取ります。

生体弁は留置された直後から、患者さんの新たな弁として機能します。

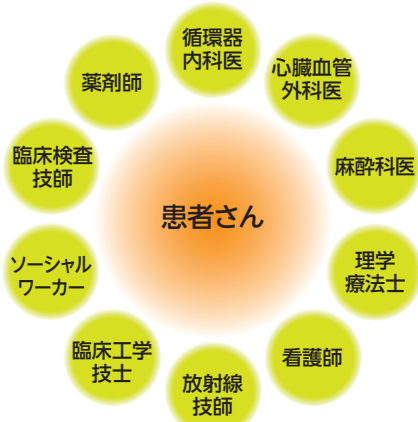
高い手術であるものの人工心肺装置を使用するため全身の臓器に大きな負担を強いることになりません。高齢者や併存疾患を持つ患者さんにとって外科的大動脈弁置換術を行うことが困難なことも少なくありません。そのような患者さんでも十分に治療を受けることができる低侵襲な治療法として開発されたのが経カテーテル的大動脈弁置換術「TAVI」です。TAVI治療では折りたたまれた生体弁をカテーテル（管）を用いて大動脈弁位まで運び、硬くなった

よく送り出した血液が心臓に逆流しないように3枚の弁が組み合わさり、大きく開きしつかり閉じる仕組みになっています。この大動脈弁が加齢などにより石灰化して硬くなり、弁が開きにくくなることで血液の流れが妨げられてしまう疾患を大動脈弁狭窄症といいます。大動脈弁狭窄症は進行すると息切れや胸部圧迫感、失神などを引き起こし突然死のリスクが高い病気です。進行した大動脈弁狭窄症を薬物療法で治すことはできないため、硬くなった弁は人工の弁に取り換える必要があります。心肺を一時的に停止させて行う外科的大動脈弁置換術が標準的な治療ですが、安全で確実性の

当院の「ハートチーム」について

「ハートチーム」とは循環器内科医、心臓血管外科医が中心となり数多くのメディカルスタッフが合同で心疾患診療にあたるシステムの名称です。

▼ハートチーム構成図



近年の心疾患診療においては、治療を受ける患者さんの高齢化や併存症の複雑化とともに、新しい診断技術や治療手段が登場し同じ疾患に対して外科的治療やカテーテル治療、薬物療法など、治療が選択できるようになっています。当院でのTAVI治療においては、直接的に治療に携わる循環器内科医、心臓血管外科医のほか、麻酔科医、臨床工学技士や臨床検査技師、放射線技師などのメディカルスタッフが毎週金曜日に集まりチームカンファレンスを実施し、それぞれの立場から意

見交換し、治療方針や治療時期の決定を行っています。経験豊富なそれぞれの専門分野のメンバーが議論を交わすことにより治療の選択肢が広がり、各々の専門分野に囚われることなく共通の目的を持つてひとりの患者さんに最適な治療を提供することが可能となります。また、手技はハイブリッド手術室で行われますが、実際に行う手技においても麻酔科医、手術室看護師、放射線技師や臨床工学技士などの参加が不可欠で、万が一の合併症に備え、心臓血管外科医も必ず治療に参加し、総勢10名を超える、まさにチームで治療を行っています。さらには人工弁の感染症発症のリスクを減らすために術前に口腔内環境チェックや歯科治療を行ったり、治療後の生活にスムーズに戻っていただけるよう術後のリハビリテーションも積極的に行っています。今後は、退院後に通院していただく近隣の医療施設との連携を深め、地域全体でひとりの患者さんをケアしていく大きな意味でのハートチームを形成していくことをめざしています。



▲当院のハイブリッド手術室での治療の様子

正面玄関ホールに クリスマスツリーを設置しました

11月21日から12月26日まで、正面玄関ホールにクリスマスツリーを設置しました。
色とりどりのオーナメントや光で正面玄関ホールが華やかになりました。



本誌「びり〜ぶ」について 皆さまのお声をお聞かせください

今後も皆さまの声を反映しながら、よりよい情報誌にしていきたいと考えています。
ぜひ、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力をお願いします。

アンケート方法
上記のQRコードを
携帯電話で読み取り、
回答後、
送信してください。



海外たすけあい募金に ご協力ありがとうございました

当院では12月1日〜22日まで院内各所へ募金箱を設置しました。皆さまから総額66,264円もの心温まるご寄付をいただきました。募金にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。また、今後とも赤十字活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

海外たすけあいて？ 海外の紛争、災害、病気で苦しむ人々を支援することを目的に、昭和58年2月から始まった海外たすけあい募金は今年で41回目を迎えます。日赤の国際活動の多くが、このキャンペーンの寄付で実施されています。集められた寄付金は、例えば海外で地震、洪水、干ばつ等災害が起きたときには、被災国の赤十字社からの要請に基づいて、国際赤十字の枠組みを通して現地の赤十字社に資金が送られます。現地では、国際赤十字の調整のもとに、食料や緊急救援物資等の購入や、地元で根差した現地赤十字職員やボランティアが物資の配布や救援活動を行います。また、日本から日赤の職員を派遣して活動していることもあります。

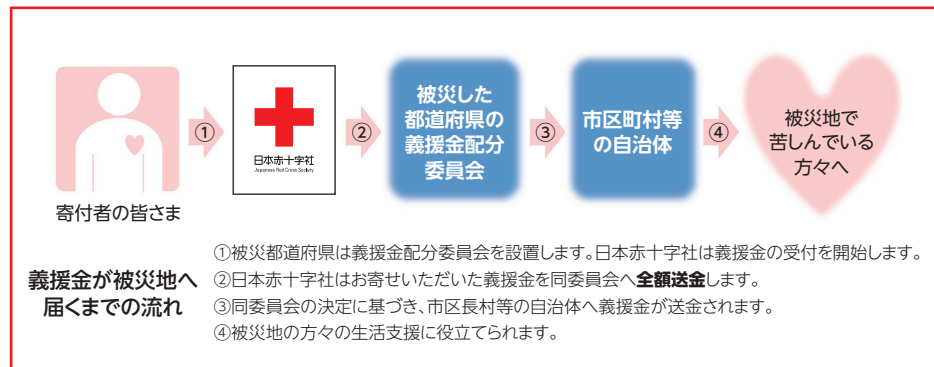
人事異動情報 (令和5年9月30日付〜11月26日付)

- 採用**
- (10月1日付)【腎臓内科】木下 慶一郎(専攻医) 【脳神経内科】石川 大樹(専攻医) 【消化器外科】大下 恵樹(専攻医) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】野田 康平(専攻医) 【小児科】難波 かほり(専攻医) 【呼吸器内科】岡垣 暢紘(専攻医) 【呼吸器外科】大迫 隆敏(専攻医) 【整形外科】平塚 将太郎(医師) 【脳神経外科】香月 教寿(非常勤嘱託医師) 【大阪赤十字病院附属大手前整肢学園医務部】田中 咲良(専攻医)
 - (11月1日付)【脳神経内科】山村 隆(非常勤嘱託医師) 【眼科】本田 有希(専攻医)
 - (11月13日付)【麻酔科・集中治療部】岸田 賢治(非常勤嘱託医師) ●(11月26日付)【脳神経外科】山下 陽生(非常勤嘱託医師)
- 退職**
- (9月30日付)【脳神経内科】片山 拓也(専攻医) 【乳腺外科】谷田 梨乃(専攻医) 【消化器外科】内山 葵(専攻医)／藤本 貴士(専攻医) 【呼吸器内科】國宗 直紘(専攻医)／坂本 裕人(専攻医) 【呼吸器外科】嶋村 亜紀(専攻医) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】草野 純子(医師) 【小児科】安西 香織(医長→非常勤嘱託医師)／岡田 英徳(専攻医)／西川 和希(専攻医) 【脳神経外科】杉田 義人(医師) ●(10月31日付)【産婦人科】川田 悦子(医師) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】鈴木 千晶(非常勤嘱託医師)／平川 佳菜(非常勤嘱託医師)／野々村 万智(非常勤嘱託医師)

ご寄付 について 皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

「令和6年能登半島地震災害義援金」の受付について

令和6年能登半島地震で被災された皆さまならびにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。日本赤十字社では、令和6年能登半島地震災害による義援金を受け付けております。皆さまからお寄せいただきました義援金は、被災地の方々の生活を支援するため、被災都道府県が設置する義援金配分委員会へ全額をお送りします。



受付期間 令和6年1月5日(金)〜令和6年12月27日(金)

- ①ゆうちょ銀行・郵便局
口座記号番号 00150-7-325411
口座加入者名 「日赤令和6年能登半島地震災害義援金」
※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載してください。
※ゆうちょ銀行・郵便局窓口での取扱いの場合、振替手数料は免除されます。
- ②メガバンク口座
- | | | | |
|---------|--------|------|---------|
| 三井住友銀行 | すずらん支店 | 普通預金 | 2787501 |
| 三菱UFJ銀行 | やまびこ支店 | 普通預金 | 2105493 |
| みずほ銀行 | クヌギ支店 | 普通預金 | 0620669 |
- ※口座名義はいずれも「日本赤十字社 にほんせきじゅうじしゃ」
※金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります。
※受領証の発行を希望される場合は、本社パートナーシップ推進部(電話:03-4363-2056)に以下の内容をご連絡ください。
【住所、氏名(受領証の宛名)、電話番号、寄付日、寄付額、振込金融機関名及び支店名】

▼大阪赤十字病院から現地への派遣 (令和6年1月11日現在)

- 1月2日 日赤災害医療コーディネイトチーム派遣
- 1月4日 救護班(第1班)派遣
- 1月7日 救護班(第2班)派遣

活動についてはInstagramでも発信しています。



【税制上の取扱いについて】
個人については、所得税法第78条第2項第1号、地方税法第37条の2第1項第1号及第314条の7第1項第1号に規定する寄附金、法人については、法人税法第37条第3項第1号の規定に基づく寄附金に該当します。

病院のご案内

- 受付時間(月〜金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日〜金曜日 8:30〜11:30
再診/月曜日〜金曜日 8:00〜11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日〜1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一部を制限しています。
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

LINE 友だち登録してね 随時配信中! Instagram フォローしてね



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 令和6年1月発行
■お問い合わせ TEL:06-6774-5111(代表)
大阪赤十字病院 <https://www.osaka-med.jrc.or.jp>
赤十字全般 <https://www.jrc.or.jp>

